

晴れが多い

（浜田測候所発表）本週間は比較的晴れの多い方ですが、十日及び十三日、十四日は曇勝ちで多少雨がある見込です。気温は大体平年並でしよう。十日午後十一日晴、十二日午後曇十三日曇所により一時雨十四日曇後晴

週刊
第457号
昭和30年
12月10日
(土曜日)

石見タイムズ

昭和21年9月4日
第三種郵便物認可
昭和25年11月20日
国鉄特別取扱承認六二四

石見印刷所

浜田市新町 電話1317番

発行所 鳥根県浜田市高田町62 石見タイムズ社（毎週土曜日発行）
本紙定価 一月50円 郵送費一月月 5円 電話代号 113番 振替口座高松江 一八九〇番

年末資金に目星

交付税引上年内に配分

鳥根県は職員給与、諸手当、ならびに事業その他諸払いのため年末資金として三億四千万程度の借入れに至つて見られていたが、最近に至つて地方交付税率の引上げ分の年内渡しおよび起債の前借りが実現するとの見通しがつきました。年末資金のやりくりは何かと目星がついて来た。

これに對して収入面では十二月中に国庫補助金、県税、手数料、使用料など四億四、前月分からの繰越収入二億四、合計六億四の収入と押えて、少くとも三億四、四億円の資金不足を賄うためには一時借入れもやむを得ない実情にまで追い込まれて来た。ところが地方財政の赤字緩和策として今国会でできるものとして今年度交付税の三割引上げによつて六十億四千万の交付税が見込まれ（県市町村で百八十八億四千万）残りの百八十二億四千万は特別交付税に配分）の概算を年末資金に間に合わせるよう自治庁は早速交付の肚をきめたとの朗報がある。これを推算すると鳥根県で大体二億四千万程度の増配分が年内に入金出来ることになる。さらに今年度県の起債申請三億七千五百万円のうち現在迄に一億五千万円を財政調整資金として借りているが、このほど県財政当局が自治庁と折衝の結果三億五千万円の前借りが出来ることの内定した。この前借りしたのから調整資金として借り返す一億五千万円は直ちに返済しなくてはならないので差引二億は年内に前借り出来ることになるが、結局地方交付税増配分と

金輪

△災害復旧費は地元負担金が百万円以上（町村は七十万円）の場合でない場合、その後起債は一切認められなくなつたが、浜田市の場合は二十五、六、八、九年災等合計百八十八万円で、地元負担金は約六十二万四千円しかない。そこで「県から浜田は災旧工事の地元負担を純市費で賄えぬのなら、割当は早く返した」と云つて来た。これに對して林市建設課長「返上すれば来年度から国補は駄目になるし、よ云つて金はなし。だが町

開脚光浴びる江川 強行か中絶か段階式か

こゝに一応再燃しはげめた。発電計画をとりあげた。さき頃参院補選に当選した佐野氏（前中国電力東京支社長）が帰郷したときの話題に、たまたま川発電問題が出た会合があつた。このとき佐野氏が計画元の日本電源開発会社の調査部長に會つたところ「こゝまで進めた計画を今更に変更する意志はない」と語つたとなつた。この「こゝまで」といふのが、開発会社側は江川水系電源開発のため現在までに一万余人を動員、三千万円の経費をかけ航空写真も数回に亘つて撮映し、準備は一応出来ているので、三十二年



完成を目指して既定方針通り推進したいといふことである。うだ。邑智郡都賀行村高梨地点へダムを築いた場合六、七戸の人家が水没する。こゝの三、四線貫通計画もオジヤンになることは必至。この場合現終藩駅の浜原郡赤名町へつなぐ、一転して広島県三郡作木村の下作木辺りへ連絡して

三度へ出るという線が考えられるようだ。この線については飯石郡の許可もあつたといふので、こゝまで進めた。こゝまで進めた。こゝまで進めた。こゝまで進めた。

李ライン排撃へ大舉陳情

一寫眞は浜田駅頭の漁民代表壯行会一

を進行、最終的には知事に許可権限のある水利権のことも明かして抵抗する。現在、前述の通り、日本電源開発会社が最近この新しく九万キロを発電的に江川九万キロを電行の意志表示をして来たものではなく、消えたと思はれて来たものから、また懸が出たといふこと、こゝら辺りで九万キロ強行か、中絶か、